

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2021年度
氏名	池田 有希	指導教員 (主査)	齋藤 梓

論文題目	男性同性愛者への態度と被異質視不安・異質拒否傾向，養育環境の性役割期待との関連
------	--

本文概要	
<p>【問題と目的】 同性愛とは、「性指向が異性ではなく、同性に向いていること」(和田, 2010)を指す。日本における同性愛に対する態度の研究は様々あるが、男性の方が女性より同性愛を容認しておらず(和田, 1996)、男性の男性同性愛者への態度が受容的でないことは一貫した結果として示されている(和田, 2008; 古長, 2016)。同性愛者に対する態度に影響する要因は様々あり、田中・伊藤・葛西(2019)が被異質視不安・異質拒否傾向の高さと同性愛者への態度を検討した結果、大学生では異質拒否傾向が高いと同性愛者に対する嫌悪・拒否的態度が高かった。同性友人関係で期待するものは性差と性役割タイプによる差がみられ(和田, 1993)、被異質視不安と異質拒否傾向においても性役割タイプが関わっている可能性がある。両親から明確なジェンダーステレオタイプな性別役割行動を期待された娘は女性役割期待に基づいた性役割選択をする(伊藤, 1980)とされ、養育環境におけるジェンダーステレオタイプな期待は、個人の性役割に対する態度に影響を与えられられる。このことから、養育環境においてジェンダーステレオタイプな期待をかけられた場合、同性愛に否定的になることが推測される。先行研究では、養育環境のジェンダーステレオタイプの性役割期待と被異質視不安・異質拒否傾向の関係の検討はされていない。よって、本研究では、養育環境のジェンダーステレオタイプの性役割期待、被異質視不安・異質拒否傾向が男性同性愛者に対する態度に与える影響を検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 大学生170名に無記名式のアンケート調査をWEB上で実施した。有効回答者は167名であった(性的指向を異性と回答した者: 男性58名, 女性83名, 平均年齢=19.96, $SD=1.69$, 異性のみでない回答した者: 男性3名, 女性23名, 平均年齢=20.08, $SD=1.27$)。調査内容は、①フェイスシート(年齢, 性別, 学科, 性的指向)②LGに対する態度尺度(葛西・田中, 2020)(男性同性愛者のみを問うように修正)③養育環境での性役割期待を問う項目(鹿内・後藤・若林, 1982)④被異質視不安項目・異質拒否傾向項目(高坂, 2010)であった。</p> <p>【結果と考察】 各尺度で性差を検討するため t 検定を行った。その結果、女性の方が男性より有意に「個人的肯定」、「恋愛的肯定」、被異質視不安が高く、男性の方が女性より有意に「リーダーシップ」が高かった。養育環境の性役割期待と被異質視不安・異質拒否傾向が男性同性愛者に対する態度に与える影響を検討するためにパス解析を行った。その結果、男性では想定していたモデルでは、よい適合度が得られず、モデルを再検討し、「個人的肯定」のみに与える影響を検討したところ、被異質視不安、異質拒否傾向、「おしゃれ」が個人的肯定に影響を及ぼすことが明らかになった。女性では、被異質視不安が「個人的肯定」に影響を及ぼすこと、異質拒否傾向が「身近な人・肯定」と被異質視不安に影響を及ぼすことが明らかになった。女性では養育環境の性役割期待は被異質視不安・異質拒否傾向と男性同性愛者に対する態度へ影響を与えていなかった。これらのことから、男女ともに男性同性愛者を自身と異なる者と捉えている可能性が考えられる。そのため、自分とは異なる存在であることが受け止めきれず、男性同性愛者に対する態度が否定的であった可能性がある。また、女性では、養育環境での性役割期待ではなく学校やメディアといった他の要因が男性同性愛者に対する態度に影響している可能性があるため、関連を検討していく必要がある。</p>	